

7月7-11日週のドル円レビュー

July 14, 2008

■米住宅金融公社経営不安でドル急落

High : 107.75 円 Low : 105.66 円
 Close : 106.30 円 (前週比▲0.54 円)

市場の焦点が原油価格と米住宅金融公社の信用問題に集まる中でドル円の上値は重くなり、結局テクニカル面でもNY引け値が200日移動平均線を超えられなかった。イランのミサイル試射で地政学的リスクが高まったこともドル売りを強める材料に。ファニーメイ、フレディマック株が急落すると、ドル円は一時105.66円まで下落した。バーナンキFRB議長が証券大手に対する直接融資措置を09年まで延長を検討すると発言したが、一時的な対策と見られドル円は全面安で引けた。

■7/7 (月) 107.20 円 (前日比+0.36 円)
 アジア時間からのドル買いの流れを受けて107.75円まで上昇、米株の乱高下を受けてロンドン時間から反落。ドル円は107.75円から106.66円まで急落。引けにかけて株価が持ち直すと107円前半まで反発して引け。

■7/8 (火) 107.52 円 (前日比+0.32 円)
 朝方は欧州株の大幅下落を受けて円買いが進み、106.25円まで下落。バーナンキ議長がプライマリーディーラー向け緊急貸出制度を09年まで延長を検討すると発言後は、ドル買い戻しで107.55円まで上昇。

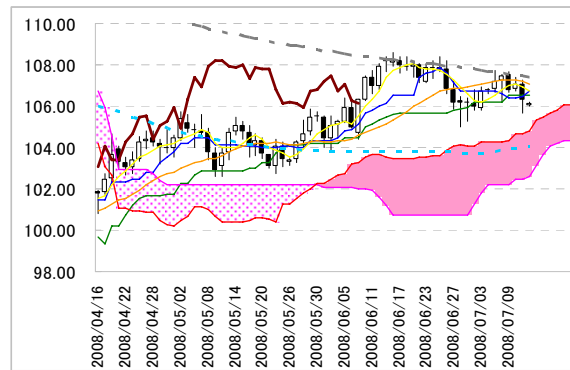
■7/9 (水) 106.78 円 (前日比▲0.74 円)
 朝方はアジアネームの対円、対ユーロでのドル買いが目立ち、ドル円は107.66円まで上昇するも、米株の大幅下落や原油高を嫌気して反落。ドル円は再び200日移動平均線にはね返された形で106.67円まで下落した。

■7/10 (木) 107.08 円 (前日比+0.30 円)
 本邦からとみられる買いで107.40円まで上昇。新規失業保険申請件数が節目の35万件を下回ったことからドル円は一旦107.45円まで上昇。しかし、米金融株の下落を受けて106.70円まで下落した。

■7/11 (金) 106.30 円 (前日比▲0.78 円)
 米株先物の下落を受けてドルは軟調な展開。ファニーメイ、フレディマック株の急落を受けて、信用不安が増大。ドル円は106円後半から105.66円まで急落した。

	High	Low
7/7 (月)	107.75 円	106.66 円
7/8 (火)	107.55 円	106.25 円
7/9 (水)	107.66 円	106.67 円
7/10 (木)	107.45 円	106.70 円
7/11 (金)	107.30 円	105.66 円

■ドル円の推移



■テクニカル短期・中期ポイント

- 119.84 (8月8日の戻り高値)
- 109.78 (55 週移動平均線)
- 107.41 (200 日移動平均線)
- 106.70 (日足一目均衡表・転換線)
- 106.51 (日足一目均衡表・基準線)
- ==先週末のNYクローズ 106.30 円==
- 105.71 (55 日移動平均線)
- 104.83 (日足一目均衡表・雲の上限)
- 100.80 (4月15日安値)

■米国の重要指標結果

- 7/8 (火) [結果] (前回)
 バーナンキFRB議長、「金融の規制と安定」について講演
 ※プライマリーディーラー向けの緊急貸出制度を09年まで延長することを検討すると示唆
- 7/10 (木) [結果] (前回)
 米新規失業保険申請件数 [34.6 万件] (40.4 万件)
- 7/11 (金) [結果] (前回)
 5月貿易収支 [▲598 億ドルの赤字] (▲605 億ドルの赤字)
 7月ミシガン大学消費者信頼感指数・速報値 [56.6] (56.4)

■アウトルック ダイジェスト版

- レンジ : 105.00 円—108.00 円
 米国重要指標を始めイベントが目白押しでFed関連(バーナンキ議長半期議会証言、議事要旨)、金融機関決算、インフレ関連(PPI、CPI)、消費関連(小売売上)、住宅市場関連(NAHB住宅市場指数、住宅着工)、製造業サーベイ(NY、フィラデルフィア)などに振れる展開か。